

# 動画配信による 委託研究の紹介が 始まりました！

保育・子育て総合研究機構代表  
室田一樹

## はじめに

保育・子育て総合研究機構（以下、研究機構）傘下の研究企画委員会および国際委員会では「人口減少社会の保育を編む」をテーマに、若く優れた研究者に中長期的な研究を委託しています。

これまでの研究成果は、全私保連HPあおむし通信や本誌に紹介してきましたが、文字媒体による情報提供に加えて、動画も活用して私たちの取り組みを具体的にお伝えすべく、「保育・子育て総合研究機構だより 動画編」を作成し、順次YouTube 全私保連チャンネルにアップすることを始めました。その第1弾が、今回紹介する「自由の主体を育む保育」です。

この動画を企画されたのは委託研究者の山竹伸二氏です。研究テーマは「『自由の主体』を形成する保育実践に関する現象学的研究」です。この研究での議論をよりわかりやすくお伝えするために、動画では3名の登壇者が保育の場の具体例も豊富に交えて楽しく語り合いました。

## 登壇者を紹介します！

委託研究紹介動画・1「自由の主体を育む保育」は、企画発案者の山竹伸二氏と西研氏の2人の哲学者に保育園長である私を加えた鼎談のスタイルをとっています。

哲学者であり著述家でもある山竹氏（同志社大学赤ちゃん学研究センター嘱託研究員）は、現代社会における心の病と、心理治療の原理、および看護や保育、介護などのケアの原理について、現

象学的な視点から捉え直す作業を続けていらっ  
しゃいます。

また『「認められたい」の正体』（講談社現代新書）、『本当の自分』の現象学』（NHKブックス）、『子育ての哲学』（ちくま新書）、『共感の正体—つながりを生むのか、苦しみをもたらすのか』（河出書房新社）、『心理療法の精神史』（創元社）など、多数の著書があります。

同じく哲学者である西氏（東京医科大学兼任教授、元東京医科大学哲学教室教授）は、日本を代表するヘーゲルの研究者であり、竹田青嗣氏（早稲田大学名誉教授）との現象学に関する著書も多く、そのグループの仲間に山竹氏もいらっしやることから、今回の鼎談のゲストとしてお招きしました。著書には、『実存からの冒険』（ちくま学芸文庫）、『哲学のモノサシ』（日本放送出版協会）、『哲学の練習問題』（河出文庫）、『哲学的思考—フッサール現象学の核心』（ちくま学芸文庫）、『哲学は対話する—プラトン、フッサールの〈共通理解をつくる方法〉』（筑摩選書）など多数。

動画撮影後に西氏から『ヘーゲル—自由と普遍性の哲学』（河出文庫）をご恵贈いただきました。本書は1995年1月に刊行された『ヘーゲル・大人のなりかた』（NHKブックス）に「文庫版まえがき」を増補のうえ、改題されて文庫化されたものですが、その「まえがき」には、次のように書かれています。

「ヘーゲル哲学最大のテーマは、自由である。そして彼は、この自由の可能性をもっとも深く考えた哲学者の一人であり、そのメッセージは決して古びていないと私は考えている。しかしその内実は、ヘーゲルの著作の異常なまでの読みにくさもあって、ほとんど知られないまま現在に至っている。」

動画のタイトルが、「自由の主体を育む保育」ですから、山竹氏が西氏を招いた理由が、ここに窺えます。

## コンテンツは4つです！

では、委託研究紹介動画・1「自由の主体を育む保育」の内容を簡単に紹介しましょう。

本動画は4つのパートからなり、それぞれのタ

イトルは次のようになっています。

Part 01 自由ってなんだろう (約40分)

Part 02 楽しい保育カンファレンス (約40分)

Part 03 「こどもまんなか」実現へ (約20分)

Part 04 保育現場で頑張る皆さんへ (約15分)

収録当日、山竹氏が用意した簡略な進行表が渡され打ち合わせもしましたが、つまるところ鼎談は話者それぞれの思いと思いつきの交錯から生まれるものに醍醐味があるのだから、出たところ勝負にしましょうということになりました。そのため大きな流れは進行表に従いましたが、各パートのタイトルは撮影・編集を担当してくれた山田裕宇記園長(全私保連広報部副部長)に委ねました。

さて、01「自由ってなんだろう」では、動画配信の目的と登壇者の自己紹介に続いて、保育にあるいは保育者になぜ哲学が有用なのか、そもそも哲学とは何かといったことが哲学者2人から語られます。そして、自由こそが人の幸福の重要なテーマの1つであることに話は及びます。動画にはありませんが、自由とは何かを考える時、不自由とはどのような状態を指すのかを考えるとわかるとされる場合があります。その一例が刑務所です。収監者には移動や時間や欲望が制限されます。それが刑罰になるのは、このような不自由がとても辛いものであるからでしょう。その裏返しは自由です。ところが、「あいつは自由だから」という言い方は、「空気を読まない勝手なヤツ」(西研氏前著、13頁)を指します。ですから、鼎談では勝手気ままが許されることが自由ではないことが、まずは確認されます。

02「楽しい保育カンファレンス」では、冒頭で日本の義務教育が話題になります。指示命令に従順なだけの教育ではなぜ自由の主体が育たないかが語られ、山竹氏は、保育の場の出来事に子どもが生きる意味、保育者の生きる意味を問うエピソード記述を資料とした園内でのカンファレンスが、子ども理解や共感、同僚性の深まりなどに有用であることを述べます。

03『「こどもまんなか」実現へ』では、研究機構の代表の立場から私が、人口減少社会の保育を議論していただくために、リーフレット『こどもまんなか社会の実現に向けてこどもの声に耳を傾けよう—「こども基本法」成立の意義と「こども

大綱」への期待』(全私保連発行)に触れます。

そして最後の04「保育現場で頑張る皆さんへ」では、保育者への応援メッセージが登壇者それぞれから発信されます。一言で言えば、保育という哲学的で思索に富み、乳幼児期の子どもたちに不可欠のいとなみに誇りを持ってほしいこと、保育の本質的な意味を日々のいとなみを見つけ出してほしいことなどが届けられます。

動画「自由の主体を育む保育」は、01~04までのパートがある程度独立した内容になっています。園内研修などにご活用いただくことを願って止みません。

## 保育・子育て総合研究機構だより 動画編

### 01 自由ってなんだろう

[https://youtu.be/TEG2rGxJL\\_I](https://youtu.be/TEG2rGxJL_I)



### 02 楽しい保育カンファレンス

<https://youtu.be/iqKsvu1ob1M>



### 03 「こどもまんなか」実現へ

<https://youtu.be/l4hr61Rii6I>



### 04 保育現場で頑張る皆さんへ

<https://youtu.be/Jayy7rGf4pk>

